

平成30年度
岐阜大学基金特定事業「バロー・Vドラッグ海外研修奨学金助成事業」
募集要項

－平成30年度において海外で研究を開始する
大学院生対象（大学院進学予定の学部最終学年次生を含む）－

平成25年11月に発表された「岐阜大学の国際化 policy と vision」において、「日本人学生に対して、国内と海外の事情に通じ、柳戸キャンパスで英語をはじめとする外国語のコミュニケーション能力を研鑽する機会と、実際に海外で学習する機会を可能な限り与える。」と掲げられています。

そこで、平成27年度から、岐阜大学基金により、海外の大学、研究機関及びこれに準ずる機関（以下、「受入機関」という。）における単位修得や専門の研究を行う日本人大学院生を支援する新たな奨学金制度を創設しました。

本制度では、海外での研修の機会を増やすことにより学生としての資質を高め、国際的な視野に立った人生観を得るとともに、より積極的に勉学に励む人材を育てることを目的としています。

については、平成30年度岐阜大学基金特定事業「バロー・Vドラッグ 海外研修奨学金助成事業」について、下記により募集を行います。

記

1. 応募資格

次のすべての条件を満たす者

- ① 日本国籍を有している者又は日本への永住が許可されている者
- ② 申請時点において、本学大学院研究科（修士課程、博士課程、博士前期課程、博士後期課程）の正規課程に在学し、奨学金支給期間を通じて本学大学院研究科に在籍する見込みの者（連合大学院にあっては、配置大学が岐阜大学である者に限る。）または、申請時に本学学部最終学年次に在学し、本学大学院に進学する見込みの者
- ③ 受入機関において単位取得または専門の研究を行う目的が明確な者（ただし、単位取得を目的とする場合は、大学院課程へ留学する者のみとする）
- ④ 留学先において研究活動等に従事するために支障のない語学力を有している者（英語であればTOEIC 600点程度相当）
- ⑤ 上記の研修に際して、「岐阜大学短期留学（派遣）奨学金」、「優秀学生の海外派遣プログラム」及び他機関の奨学金を受給していない者

注1）申請時点において、修士課程2年に在学し、平成30年度本学博士課程進学予定の者も申請可とする。

注2）申請時点において、休学中の者は申請不可とする。

注3）申請時点において、標準修了年限内在学者のみ申請可とする。

2. 留学期間

1ヶ月以上12ヶ月以内（3ヶ月以上推奨）

3. 募集人数

年間2～5名程度

4. 支給内容

①滞在費：月額12万円　ただし、派遣先地域がアジア（一部地域を除く）、中南米、アフリカの場合は月額8万円とする。※詳細は別紙参考に記載

②授業料等：授業料、登録料及び渡航費の実額（上限額30万円）

注1）支給対象者が奨学金の受給期間中、月の初めから終わりまで1ヶ月以上にわたって留学先の国・地域を離れることになった場合、研究をより進展させる目的による場合を除き、当該月については奨学金を支給しない。

注2）上記注1）、その他研修期間の変更等で奨学金の返納手続きの必要性が生じた場合は、大学の指示に従うこと。

5. 奨学金支給期間

支給期間：1ヶ月以上12ヶ月以内

支給開始時期：受入機関において、平成30年4月1日から平成31年3月31日までの間に、単位取得や専門の研究を開始するものについては、入学する月より支援を開始する。

6. 申請書類

| 書類 | 注意事項 |
|---------------------------|---|
| (1) 申請書 | ・ 所定の様式を用いること。 |
| (2) 研修計画書 | ・ 所定の様式を用いること。 |
| (3) 推薦書 | ・ 所定の様式を用いること。 |
| (4) 成績証明書 | ・ 成績証明書は、学部、大学院両方を提出すること。本学以外に在籍していた場合も同様とする。 |
| (5) 語学能力を証明する書類 | ・ コピー1通を提出すること。 ・ 派遣先機関において、単位取得や専門の研究指導を受ける上で必要となる語学能力を証明する書類とする。 ・ 平成28年4月以降に受験したものであること。 |
| (6) 受入機関の受入承諾又は受入見込みを示す書類 | ・ 受入機関等とのメール等も可とする。 |

※ 審査の過程で必要に応じて追加書類の提出を指示する場合がある。

7. 提出方法等

提出方法：上記6に定めるすべての書類を、下記の提出期間内に所属部局の学務担当係を通じてグローバル推進本部留学支援室留学支援係に提出すること。

提出締切：平成30年2月28日（水）午後5時15分まで（締切厳守）

注）学生が所属部局へ提出する締切は所属部局により異なるので、所属する部局の学務担当係に各自確認すること。応募資格を有しない者の申請書類又は書類不備の場合は、受理しない。

8. 選考方法

グローバル推進本部が、第1次（書類審査）及び最終（面接審査）選考を行い、奨学生候補者を決定する。

- ・第1次選考の結果発表：平成30年3月上旬（予定）
- ・最終選考（面接審査）日：平成30年3月中旬～下旬（予定）

※最終選考結果の発表は、平成30年3月末を予定。研究科等を通じて申請者に通知する。

なお、選考により決定した奨学生候補者は、受入機関が発行する受入承諾書をグローバル推進本部に提出した時点で本事業の奨学生として承認される。上記書類の提出期限は、原則として、出発の3ヶ月前もしくは6月30日以前に出発する者は4月13日（金）とし、期限までに未提出の場合には、奨学生として承認せず奨学金は支給しない。

9. その他

- （1）本奨学金制度への申請にあたっては、所属する部局の学務担当係に相談し、海外研修に関する学籍上の留意点の説明を十分受け、納得した上で申請すること。
- （2）履修等の学籍上不利益とならないよう、授業・試験日程、その他各自の予定等を申請前に十分確認し、派遣先機関での研修が可能な場合のみ本奨学金制度へ申請すること。
- （3）海外研修を計画するにあたっては、当該国の入国査証取得に相当の時間を要する場合がありますので、事前に在外公館等に確認の上、無理のない日程を設定すること。
- （4）派遣先機関との受入交渉、旅券や査証の申請、航空券手配、予防接種など派遣に係るすべての手続きを自己の責任で行うこと。派遣先機関の入学許可書あるいは受入承諾書もしくは査証の取得に日数を要した等の理由により、平成30年度中（平成31年3月31日まで）の研修が不可能となった場合は、奨学金の支給を取り消すことがある。
- （5）奨学金支給期間中の事故及び疾病等に対応するため、本学は奨学生を指定の危機管理アシスタントサービス（J-TAS）に登録する。その際、奨学生は本学が指定する保険に必ず加入すること。（保険加入費用は自己負担とする。）
また、3ヶ月以上滞在する場合は、現地での緊急事態等の発生の場合に在外公館からの連絡や保護を受けられるよう、現地到着後、最寄りの在外公館に「在留届」を提出すること。
- （6）原則として、本奨学金と併せて、他団体等から当該研修のための奨学金を受けることはできない。
- （7）奨学金受給者には、帰国後、報告会や説明会への参加のほか、岐阜大学の国際化に関する業務への協力（海外留学等プログラムの広報や学生へのアドバイス等）を依頼する場合があります。依頼

があった場合、やむを得ない事情を除きできる限り協力すること。

(8) 本奨学金制度に寄附をいただいた、株式会社バローへの報告会などが開催される場合は、該当者は必ず出席すること。

(9) 派遣者は、奨学金受給期間終了時に以下の書類を提出すること。

①成果報告書（所定様式）（受入機関が発行する成績証明書等がある場合は添付すること。）

②在籍確認報告書（所定様式）原本 ※派遣期間の毎月分

③パスポートの写し（出入国スタンプが押印されたページ）

（提出先）グローバル推進本部留学支援室留学支援係（所属する部局の学務担当係を通じて提出すること。）

（期 限）奨学金受給期間終了時より1ヶ月以内

10. 問い合わせ先

グローバル推進本部留学支援室留学支援係

電話：058-293-2146

E-mail：gjai05006@jim.gifu-u.ac.jp